

＜ポイント版＞ ぎふ経済レポート（令和8年6月分）

【製造業】

- 製造業は、4月の鉱工業生産指数は前月比1.6%上昇となった。ヒアリングでは、AIやロボット、半導体の盛り上がりが必要となり、工業機械業界は好調との声がある一方、自動車部品については、業界自体の需要の低迷に加え、中東情勢の悪化により出荷や売上に影響が出ており、苦戦が続いているとの声も聞かれた。
- 地場産業は、4月の鉱工業生産指数は木材・木製品、パルプ・紙で下降した。ヒアリングでは、ここ数年間厳しい状況が続いた紡毛素材や丸編み関係に薄日が差しているといった声がある一方、海外の取引が多く、昨年の関税の影響から出荷が思うように行えていない状況で景況感が悪いといった声が聞かれた。

【設備投資】

- 設備投資は、5月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比37.4%増加となった。ヒアリングでは、老朽化対策と省力化対策のため機械の全面入れ替えを実施中といった声がある一方、中東情勢の先行き不安により規模の縮小や、投資を抑える動きがみられるといった声があった。

【個人消費】

- 個人消費は、5月の販売額は、全体で前年同月比7.0%増加となった。ヒアリングでは、5月単月では売上、客数が歴代最高を更新といった声や、集客イベント開催による入館客の増加により全館売上は前年超過といった声があった。

【観光】

- 宿泊者数は、前年同月を上回るなど、コロナ前と比較しても回復傾向にある。
- 宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。

【資金繰り】

- 5月の制度融資実績は前年同月比▲3.7%となった。中小受託取引適正法が改正されたことにより、下請け企業の資金繰りが改善され、運転資金の需要が下がったとの声がある一方、中東情勢の影響で、原材料の調達難への懸念が高まっており、供給不足や価格上昇に備え、運転資金を前倒しで借り入れて原材料確保の動きがみられるとの声が聞かれた。

【雇用】

- 5月の有効求人倍率は1.46倍と前月比横ばいとなった。ヒアリングでは、中途採用は引き続きパラパラと応募があり、人手が足りない状況ではないといった声や、事務職の募集には応募があるものの、製造現場の業務については人材確保が困難な状況といった声が聞かれた。

【景気動向】

- 4月の景気動向指数（一致指数）は前月比1.5ポイント、5月の中小企業の景況感と同3.0ポイント上昇となった。